

平成 29 年度全国普通科高等学校長会 教育課程研究委員会アンケート

◎研究協議主題

「次期学習指導要領改訂に向けた教育課程の研究」

○ 研究協議主題に添った3つの柱立て

- ① 「アクティブ・ラーニング」を学力向上につなげるための取組と課題
- ② 「英語の4技能習得」のための取組と課題
- ③ 学校の教育力を高めるための「カリキュラム・マネジメント」の取組と課題

○「高校生のための学びの基礎診断（仮称）」の取組と課題

各問の回答については、全国高等学校長協会のホームページからダウンロードした「アンケート回答用紙」（エクセルファイル）に入力してください。（注：E-mail 添付ファイルにて回答する前に、調査対象高等学校長あての依頼文に記載した「6 回答の方法」により、ファイル名を変更してください。）

問1・問2・問6は該当する符号を一つ選び、問3～問5の「複数回答可」は回答用紙の該当する符号の箇所（セル）に半角数字の「1」を入力してください。

「自由記載」については、回答用紙に文字をご記入ください。

1 学校に関する調査

問1 貴校は、次のうちどれに当てはまりますか。

(1) 設置者

- ア 国
- イ 都道府県
- ウ 市町村
- エ 学校法人等（私学）
- オ その他

(2) 課程

- ア 全日制普通科
- イ 定時制普通科
- ウ 通信制普通科
- エ 全日制普通科と定時制普通科併設
- オ 全日制普通科と定時制普通科と通信制普通科併設
- カ 全日制普通科と専門学科または総合学科併設
- キ 定時制普通科と専門学科または総合学科併設
- ク その他

問2 本年度の最終学年（年次）での、大学・短大を合わせた進学希望率はどの位ですか。

- ア 90%以上

- イ 70%以上～90%未満
- ウ 50%以上～70%未満
- エ 30%以上～50%未満
- オ 30%未満

2 先進的あるいは特色ある教育課程の実施状況について

問3 「アクティブ・ラーニング」を学力向上につなげるための取組と課題について

(1) 「アクティブ・ラーニング」について、貴校で工夫していることをお答えください。

(複数回答可)

- ア 教育課程編成
- イ 授業展開（特色ある授業等）
- ウ 教員の指導力向上のための教員研修
- エ 教員の指導力向上のための外部人材の活用
- オ 校内組織
- カ 施設設備
- キ ICT活用
- ク 評価
- ケ 取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法
- コ 特に工夫していない
- サ その他

(2) (1)で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号とともにお答えください。

(回答は自由記載)

(3) 「アクティブ・ラーニング」の取組を実施する上で課題となっていることをお答えください。

(回答は自由記載)

問4 「英語の4技能習得」のための取組と課題について

(1) 「英語の4技能習得」のための取組と課題について、貴校で工夫していることをお答えください。

(複数回答可)

- ア 教育課程編成
- イ 授業展開（特色ある授業等）
- ウ 教員の指導力向上のための教員研修
- エ 教員の指導力向上のための外部人材の活用
- オ 校内組織

- カ 施設設備
- キ 外部機関や大学・事業所等との連携
- ク 予算編成
- ケ 取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法
- コ 特に工夫していない
- サ その他

(2) (1) で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号とともにお答えください。

(回答は自由記載)

(3) 「英語の4技能習得」のための取組を実施する上で課題となっていることをお答えください。

(回答は自由記載)

問5 学校の教育力を高めるための「カリキュラム・マネジメント」の取組と課題について

(1) 「カリキュラム・マネジメント」について、貴校で工夫していることをお答えください。

(複数回答可)

- ア 教育課程編成
- イ 授業展開（特色ある授業等）
- ウ 教員の指導力向上のための教員研修
- エ 教員の指導力向上のための外部人材の活用
- オ 校内組織
- カ 施設設備
- キ 教科指導（授業）以外の取組
- ク 評価
- ケ 取組の成果の（都道府県）全体への普及・共有方法
- コ 特に工夫していない
- サ その他

(2) (1) で回答したそれぞれについて、具体的な取組の内容を該当する符号とともにお答えください。

(回答は自由記載)

(3) 「カリキュラム・マネジメント」の取組を実施する上で課題となっていることをお答えください。

(回答は自由記載)

問6 「高校生のための学びの基礎診断（仮称）」について

(1) 「高校生のための学びの基礎診断（仮称）」の導入成果について

- ア 「期待できる」
- イ 「期待できるとは思えない」
- ウ 「どちらともいえない」

(2) 「高校生のための学びの基礎診断（仮称）」の実施回数について

- ア 1回
- イ 2回
- ウ 未定

(3) 「高校生のための学びの基礎診断（仮称）」の1回目の実施時期について

- ア 1学年：4月から6月
- イ 1学年：7月から9月
- ウ 1学年：10月から12月
- エ 1学年：1月から3月
- オ 2学年：4月から6月
- カ 2学年：7月から9月
- キ 2学年：10月から12月
- ク 2学年：1月から3月

(4) 「高校生のための学びの基礎診断（仮称）」の実施に関する文科省からの情報発信や実施上の課題について、ご意見をお聞かせください。

※ ご協力、誠にありがとうございました。